



2013年3月期 決算説明会

2013年5月16日

株式会社日清製粉グループ本社



目 次

I. 小麦相場・TPP

II. 2013年3月期 実績

III. 中期経営計画 具体的成果(2012年度)

IV. 中期経営計画(2013～2015年度)



I . 小麦相場・TPP



1. 小麦相場の状況①

【穀物相場推移】



注) グラフの背景の色は、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている



1. 小麦相場の状況②

- ・ 昨年6月、米国の大旱魃によるコーン・大豆相場急騰に連動し、更にはロシアでの小麦減産見通しにより、小麦相場が高騰
- ・ その後、9月以降は南米産コーン・大豆の豊作見通しにより、穀物相場全体が下落し、小麦相場も収穫高の見通し改善等もあり軟調に推移
- ・ 一方で昨年12月頃からの円安により、政府買付け価格が上昇

2013年4月 1日～ 輸入小麦政府売渡価格9.7%値上げ
2013年6月20日～ 日清製粉(株) 業務用小麦粉の値上げ

今後 2013年10月 輸入小麦政府売渡価格改定(予定)

上昇要因

- ・ 米国の乾燥天候、低温によるコーン、大豆の作付遅延
- ・ 豪州東部の乾燥天候懸念
- ・ 中国の小麦作付け懸念
- ・ 為替相場(円安)の影響

下落要因

- ・ 黒海沿岸諸国(ロシア、ウクライナ他)での豊作見込み
- ・ 比較的潤沢な世界小麦在庫水準
- ・ 予想を上回る米国産コーン、大豆の在庫



2. TPPについて

TPP交渉参加への経緯

2013年2月22日 日米首脳会談でTPPが「聖域なき関税撤廃が前提ではない」ことを確認

2013年3月15日 日本政府がTPP交渉参加を表明

2013年4月20日 交渉参加11カ国が日本の参加を正式承認→7月の交渉から参加

.....

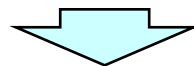
* 政府・自民党

「農林水産分野の重要5品目（米、**麦**、牛肉・豚肉、乳製品、砂糖）の聖域の確保を最優先する」との考え

<TPPに対する視点>

①現在日本で使用されている小麦の9割は輸入に頼っており、国民の主要食糧としての安定確保が可能かどうかの検証

②小麦は幅広い食品の原料に使用されており、小麦生産者、製粉産業、食品産業、消費者、すべての段階での影響を検証



当社グループは、国民の豊かで安全・安心な食生活への貢献を目指し
安全・安心な製品の生産・供給とコスト競争力の強化の両立を推進していく



Ⅱ. 2013年3月期 実績



1. 2013年3月期実績①

Miller Milling社買収効果もあり売上は**前年比103.1%**

食品事業における拡売費増加等により営業利益は**前年比94.1%**

当期純利益は**前年比102.7%**

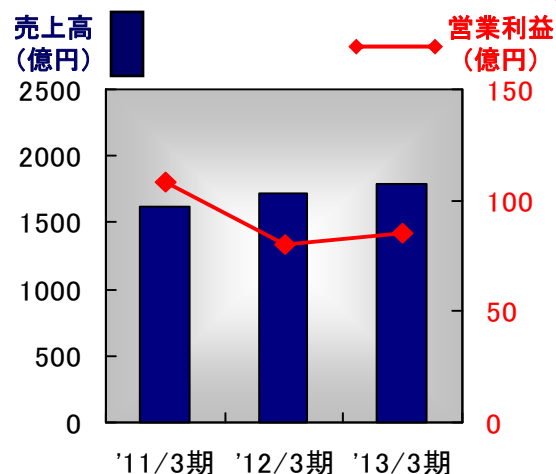
(単位:百万円)

	2013年3月期 実績	業績見通し		前年	
		見通し	見通し比	前年実績	前年比
売上高	455,566	459,100	▲0.8%	441,963	+3.1%
営業利益	21,740	23,500	▲7.5%	23,113	▲5.9%
経常利益	24,742	26,300	▲5.9%	26,132	▲5.3%
当期純利益	13,688	14,600	▲6.2%	13,326	+2.7%



2. 2013年3月期実績(セグメント別)

製粉事業



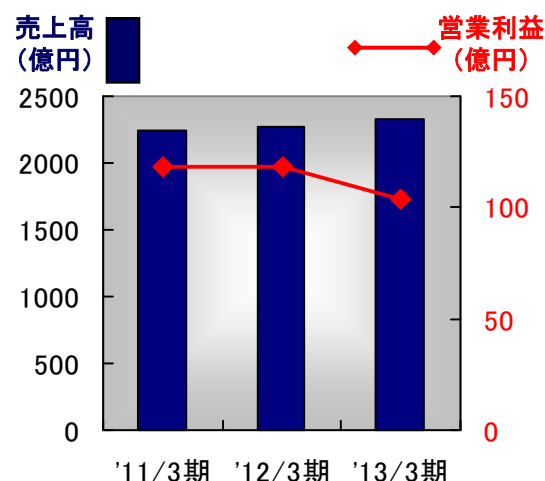
◆売上高

国内小麦粉出荷が前年を上回り、Miller Milling社の連結効果もあり71億円増加

◆営業利益

コストダウン及びふすま価格の堅調等により5億円増加

食品事業



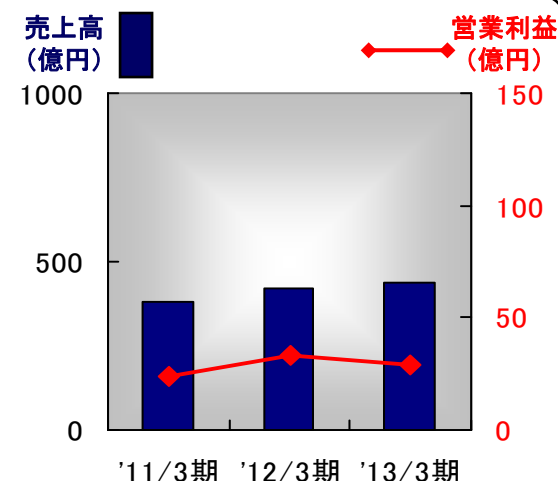
◆売上

冷凍食品、中食・惣菜、医薬品原薬「EPA-E」の出荷増大により52億円増加

◆営業利益

加工食品の拡販費用の増加等により▲14億円減少

その他事業



◆売上

エンジニアリング事業の好調により12億円増加

◆営業利益

ペットフードの販売条件悪化等により▲4億円減少



Ⅲ. 中期経営計画 具体的成果 (2012年度)



1. 海外事業の拡大①

チャンピオン製粉買収

オセアニアの大手食品企業Goodman Fielder社のニュージーランド（以下NZ）の製粉事業を51百万NZドルで買収（約35億円*）

売上：150百万NZドル（約**100億円***）、NZ国内シェア：**1位（55%）**

生産能力：760トン/日（2工場合計、原料小麦ベース）

* 日本円は概算で買収当時のレート1NZドル≒68円で換算

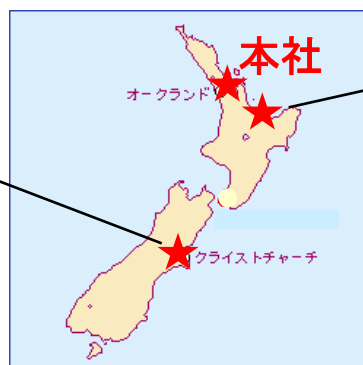
【買収の目的】

- ・当社ノウハウとのシナジーによる出荷拡大（小麦粉、ミックス他）
- ・日本で使用されている小麦の主産地オーストラリアにおける原料調達（品種・購買）ノウハウの蓄積
- ・Goodman Fielder社との関係強化

クライストチャーチ工場



マンガヌイ工場



生産能力
240トン/日
（小麦ベース）

生産能力
520トン/日
（小麦ベース）



1. 海外事業の拡大②

海外製粉工場の生産能力増強

(生産能力は原料小麦ベース)

◆Miller Milling社(米国) 2012年3月買収

- ・PMI*を推進し、生産効率改善等のシナジー追及
- ・生産能力増強: 1,725トン/日→2,235トン/日(30%増強)
(2013年2月完工)



ベーカリーを中心に拡販施策を推進

* PMI(Post Merger Integration)・・・M&A後の統合プロセス

◆日清STC製粉(タイ)

- ・生産能力増強: 240トン/日→280トン/日(20%増強)
(2013年1月完工)



高品質を求めるユーザーへの出荷、アジア近隣諸国への輸出増加により出荷拡大



1. 海外事業の拡大③

製粉海外生産比率

(生産能力は原料小麦ベース)

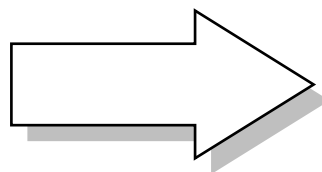
<2012年初め>

国内工場 8,200トン/日
海外工場 760トン/日



(3工場)

2014.2 福岡新工場稼働(予定)
(鳥栖工場、筑後工場 閉鎖予定)



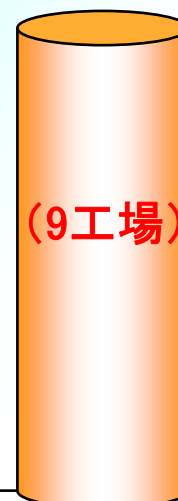
2012.3 Miller Milling社買収
2013.1 日清STC製粉 生産能力増強
2013.2 Miller Milling社 生産能力増強
2013.2 チャンピオン製粉買収

<2014年度>

(福岡工場稼働、鳥栖・筑後工場閉鎖後)

海外生産能力
約3割

国内工場 8,100トン/日
海外工場 3,800トン/日



(7工場)



1. 海外事業の拡大④

各社の海外事業の取組み

◆ オリエンタル酵母工業

2012年1月に**インド**現地法人設立、**バイオ製品（診断薬原料等）の拡販推進**

2012年1月に**シンガポール**駐在事務所を設立し、東南アジア食品市場の開拓・調査推進

◆ NBCメッシュテック

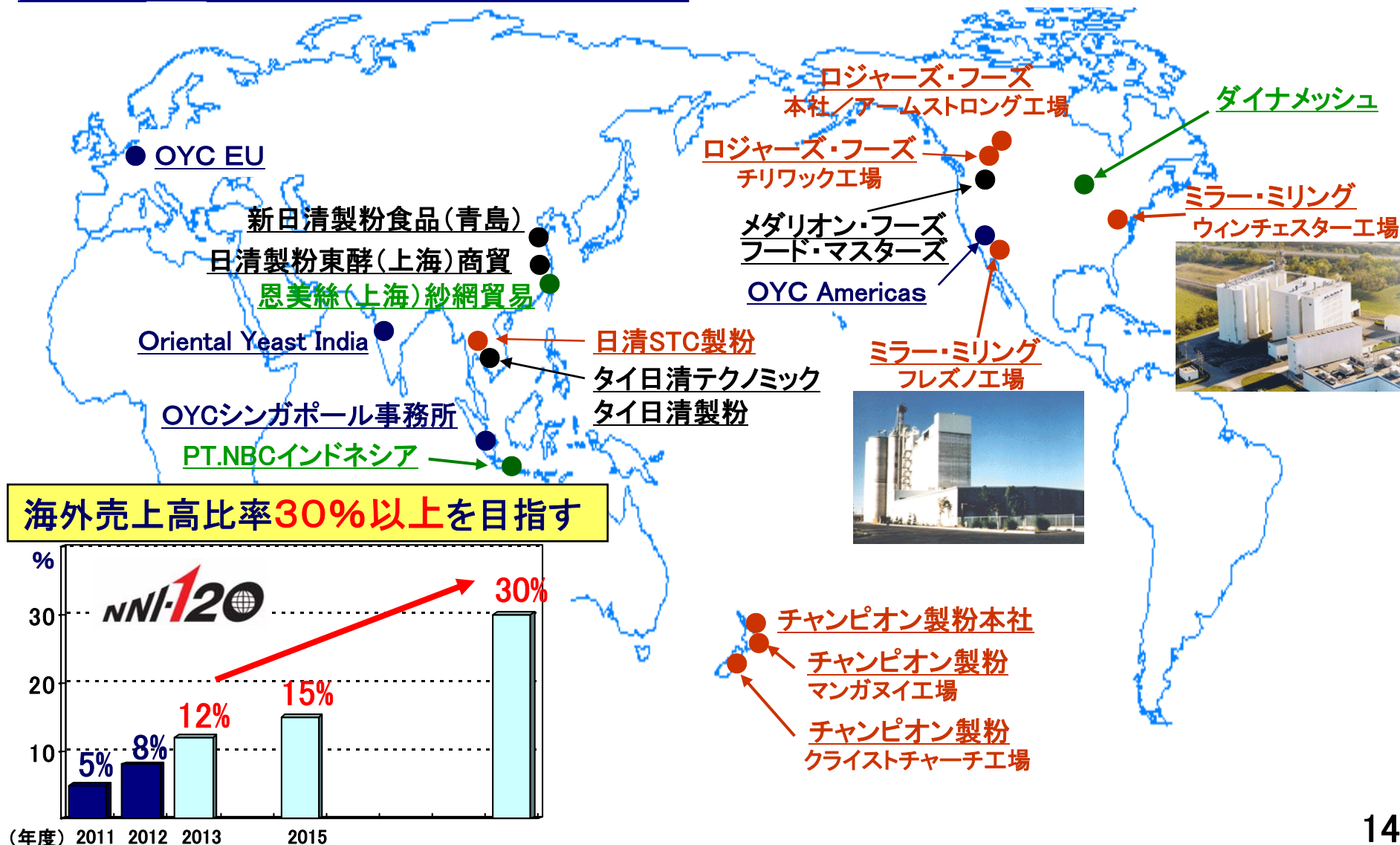
インドネシア工場の**製造能力倍増**（投資額5億円）完工
（2012年12月）

生産コスト低減 + アセアン・中国向け輸出**競争力強化**

1. 海外事業の拡大⑤

主な海外拠点

- : 製粉事業
- : 食品事業
- : 酵母・バイオ事業
- : メッシュクロス事業



2. 国内製粉工場の生産集約①

福岡新工場建設に着工

(生産能力は原料小麦ベース)

- 設備投資額: 約100億円
- 生産能力 550トン/日(2ライン)
- 2012年5月着工、**2014年2月完工**
(鳥栖・筑後2工場閉鎖)



(建設中の福岡新工場 2013.4撮影)

知多工場ライン増設決定

- 設備投資額: 約60億円
- 生産能力 660トン/日(2ライン) → 980トン/日(3ライン)
- 2013年秋着工 **2015年夏完工**(名古屋工場一部ライン停止)



臨海大型・最新鋭工場への生産集約によるコスト競争力強化
「ローコスト体制」と「安全・安心、安定品質の製品製造」を両立



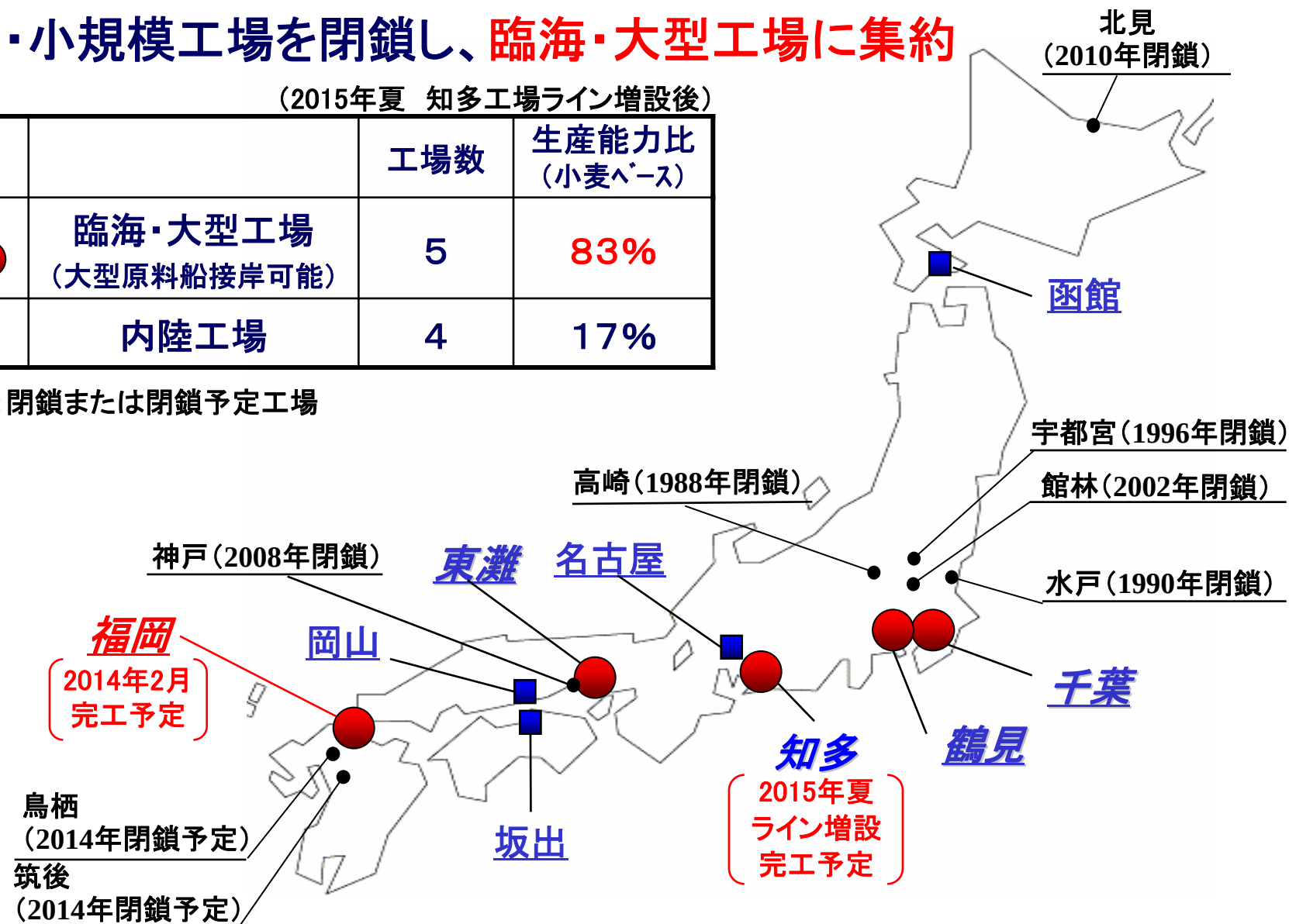
2. 国内製粉工場の生産集約②

◆内陸・小規模工場を閉鎖し、臨海・大型工場に集約

(2015年夏 知多工場ライン増設後)

		工場数	生産能力比 (小麦ベース)
●	臨海・大型工場 (大型原料船接岸可能)	5	83%
■	内陸工場	4	17%

●: 閉鎖または閉鎖予定工場





3. 中食・惣菜事業の強化

トオカツフーズ(株)に出資

◆トオカツフーズ(株)に出資(2012年12月)

- ・普通株49%他取得(持分法適用会社)、投資額:約75億円強
- ・既存のイニシオフーズ(株)に加え、同社との提携強化により、**中食・惣菜事業の拡大**を図る

中食・惣菜市場は約8兆円超の成長市場

トオカツフーズ(株)概要

- ・国内有数の中食・惣菜サプライヤー
- ・売上高:約900億円
- ・全国に惣菜工場16工場 冷凍食品工場2工場保有
- ・コンビニエンス・ストアを中心に弁当・惣菜・サンドイッチ・おにぎり等を販売

トオカツフーズ

- ・全国的な生産拠点
- ・幅広い生産ノウハウ

+

当社グループ

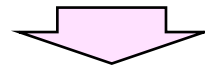
- ・商品開発力
- ・品質管理ノウハウ



4. 各社の取り組み①

日清製粉プレミックス(株)設立

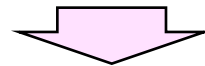
- 2012年10月新会社設立、資本金4億円
- 国内・海外で業務用プレミックスの**開発、製造、販売を一体で行うグローバルカンパニー**



プレミックス事業の国内外の事業拡大を**スピードアップ**

日清ファルマ「EPA-E」新規出荷

- 昨年7月より、Amarin社の高脂血症治療薬「Vascepa™」(米国FDA承認)向けに医薬品原薬「**EPA-E**」の出荷を開始し、順調に推移



上田工場の能力増強を計画し、更なる出荷拡大を目指す

4. 各社の取り組み②

オリエンタル酵母工業

総菜工場新設

- 2012年2月稼働、能力倍増(800トン/月)
- 新設備(高温クッカー等)を活用した新製品開発力アップ
- ベーカリーだけでなく、**ビガーマーケット**(ベーカリー以外の市場)への拡販強化



総菜工場(千葉県富里市)

補酵素生産棟新設

- 2012年12月稼働、**能力40%アップ**
- 新興国を中心に需要が増大する**診断薬原料市場**向けに、更なる拡販を図る



長浜研究所 補酵素生産棟
(滋賀県長浜市)

4. 各社の取り組み③

日清エンジニアリング

- **ホソカワミクロン(株)との提携**による新規市場の開拓
- 新規コアテクノロジーとしてビューラー社の**アンローダー**（穀物搬送設備）の取り扱いを開始
- FPI (Food Plant Innovation: 食品工場)、CIA (Cosmetic Innovation Approach: 化粧品工場)の独自ノウハウの確立



日清エンジニアリング **売上高過去最高**を達成

日清ペットフード

- **プレミアムペットフードメーカー**として地位確立を目指す
- **療法食**市場へ新規参入
- “国産”療法食「JPスタイル ダイエティクス」ブランドを販売



JPスタイル
ダイエティクス



IV. 中期経営計画(2013～2015年度)





1. 基本戦略

～2020年に向けた基本戦略～

1. **トップライン(売上高)の拡大と海外事業の拡大を最優先戦略と位置付け、重点分野に経営資源を集中的に投入**
2. **コア事業の基盤強化と、成長分野の積極的拡大**
3. **M&A、アライアンスをスピード感を持って積極的に実行**
4. **安全・安心な製品を生産・供給するとともに、コスト競争力の確保・強化に取り組む**

2. 数値目標

健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ

NNI-120
(2013~2015年度)

	2012年度 実績	2013年度 業績予想	2015年度 計画	近い将来の 数値目標
売上高	4,555億円	4,900億円 (107.6%)	6,300億円 (138.3%)	1兆円
海外売上高 比率	8%	12%	15%	30%以上
営業利益	217億円	237億円 (109.0%)	310億円 (142.6%)	500億円
ROE	4.6%	5.1%	6.8%	8%以上

()は2012年度比

中期経営計画はローリング方式を採用しており、1年ごとに経営環境を踏まえて個別戦略のレビューを行い、常に3年間の経営戦略・数値目標を設定する

2. 数値目標②

健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ



セグメント別 売上高・営業利益

(単位: 億円)

	2013年度 業績予想		2015年度 計画		差 異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
製粉事業	2,028	92	2,050	94	+22	+2
食品事業	2,392	111	2,740	145	+348	+34
その他事業	480	34	590	49	+110	+15
新規事業			920	22	+920	+22
合 計	4,900	237	6,300	310	+1,400	+73

その他事業にはセグメント間取引消去等を含む



見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。